

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和2年7月1日現在

圏域人口：50,067人

高齢者人口：12,286人

高齢化率：24.54%

【圏域の特徴】

- ・吹田市に隣接した、南北、縦に長い地域となっている。圏域内高齢化率は南に下るほど、上昇する傾向にある。(寺内 18.72% 緑地 22.97% 北条 25.29% 小曾根 25.94% 高川 26.82% 豊南 31.50%)
- ・北部はマンション・戸建て住宅が多い。マンションに暮らす方は近隣との関わりが少なく、地域での活動や情報交換が少ないため、坂道の多い地形上、閉じこもり傾向になり、要援護者が潜在化している可能性がある。
- ・寺内以外の5地域は、最寄りの電車の駅まで遠く、バスも南北にしか通っておらず、交通の便が悪い。寺内・緑地は特に坂道が多く、買い物や通院などの生活課題がある。
- ・最近では認知症に関する相談(未受診やサービス利用拒否など)と権利擁護に関する相談が全校区とも増えてきている。
- ・南部は主にアパート、文化住宅、連棟、戸建て住宅が密集している。高齢化率と合わせて独居率も高い。その地域に長く暮らし隣近所との顔見知りの関係ができています。
- ・経済面、住まいに関する困りごとなどが複雑化しており、民生委員、福祉事務所、警察などとの連携も多い。
- ・入院病床を持つ病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、小規模多機能型居宅介護施設があり、いずれも地域の活動に積極的に取り組まれている。

### センターの取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

一人一人の方の困りごとや相談に迅速で丁寧な総合相談支援を行う。地域福祉関係者、社会福祉協議会、行政機関、多くの事業所などとの有機的なネットワークづくりをめざし、地域包括ケアシステムの構築を意識し取り組んでいる。

**【特に力を入れて活動している点】**

1. 関係機関との連携強化

- ・地域の活動（ふれあいサロンや福祉なんでも相談、老人会など）に出向き、又見守りローラー作戦での個別訪問などから、情報交換や情報共有を直接行い、個別の相談や地域の現状を把握している。
- ・医療・介護を問わず様々な関係者が地域のことを一緒に考え、連携していただけるよう高齢部会、多機関連携交流会を開催している。
- ・医療・介護関係のみならず、コンビニエンスストアや郵便局、銀行、寺社などに出向き、認知症高齢者の支援や介護予防のPR、又地域包括の広報も合わせて連携強化に取り組んでいる。
- ・多世代に向けたネットワーク構築を意識し、キッズサポーター養成講座の開催や小学校、こども園、こども食堂などに出向き、包括の広報や関係づくりを継続している。

2. 通いの場・介護予防の推進

- ・通いの場のみならず、集うことができる場所探しや、立ち上げへの働きかけのため、マンションや共同住宅、地域の金融機関や商業施設へ出向き、現状把握やPRに取り組んでいる。
- ・地域教室や高齢部会でも介護予防や見守り・見守られることができる場の必要性を内容に取り入れ、住民、専門職とともに考えていただくことができるよう意識し、実施している。

**【活動中での課題やその解決策】**

1. 認知症の方への支援、認知症予防（健康寿命の延伸）

高齢化に伴い、認知症の方への支援や当事者の方からの相談が増えてきており、それに伴い、認知症の方への虐待の相談も増えている。当事者、家族の高齢化や介護期間の延長から今後も増えることが予想される。相談内容から、医療や介護サービスにつながらない、家族、近親者の理解不足などがあげられる。今後も個別相談から関係機関との連携や、予防や対応などについて住民に幅広く周知していく。

2. 校区ごとに地域の状況や課題の把握

高齢化率や住まい方、社会資源など圏域の中でも抱える問題が違い、個々の相談内容や地域アセスメントからも特徴が見え出している。その課題に対し、どのように働きかけていくかを地域活動者、医療・福祉などの関係者とともに今後も継続的に検討していく。

**総評**

**【特徴的な取り組み内容】**

- ① 地域活動へ積極的に参加するとともに、介護事業所や医療機関はもとより、コンビニエンスストアや郵便局、銀行、寺社などにも出向くなど、様々

な地域資源との関係づくりに取り組んでいます。

② 緊急性のある事案や、時間外での対応も迅速に行っています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

校区毎の地域ケア会議について、参加者が多様な意見を共有し、解決に繋げる場としてその拡充が望まれます。